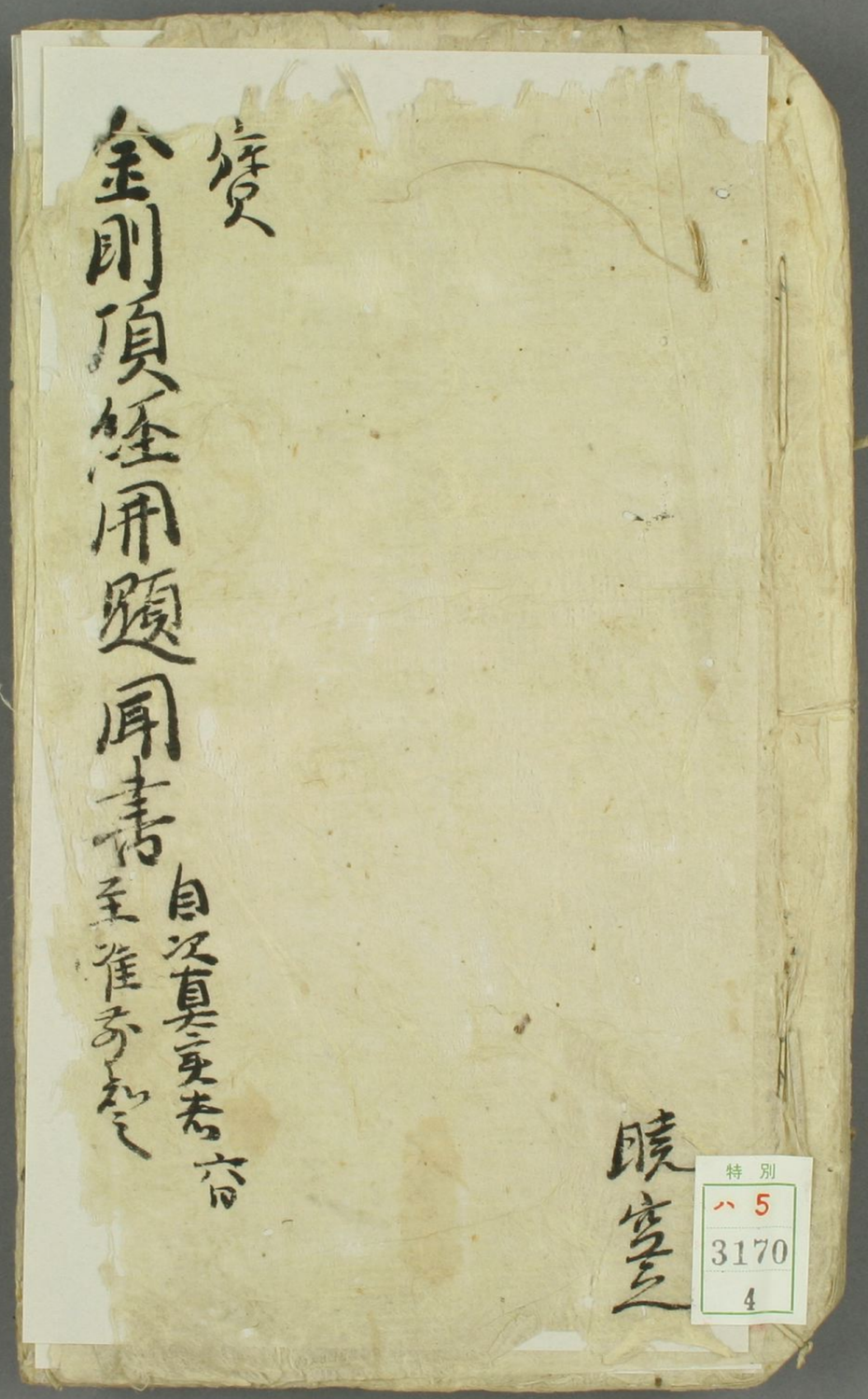

資

金剛頂經開題圓

書

自次真冬更春

至雀

暁空

特別
ハ 5
3170
4

金剛頂経瑜伽中略出念誦経

次云真実智者又是故頌真実言有四
種中初勢義真有十種対治通名十七
真実言名体性真実対治通名又真
如実智名又諸法如実相如実見名又
如実道名又諸法如実住名又
真有十種又云真如如来有二十義

39- 6521

真有十根 智表一根字事 於別人之 十根 表 之 般 之 一
十 从 表 尺 二 訳 之 論 之 義 メ 又 論 計 義 二
之 義 字 有 之 ト 云 ヒ 時 ハ 論 ノ 底 証 跡 証 ヲ 列 ク
時 時 証 ノ 中 二 ハ 云 ヒ 如 何 ニ 之 ト
真 五 ノ 二 表 十 義 ノ 尺 ヒ 云 ヒ 時 ハ 論 ノ 底 証 跡 証 ヲ 列 ク
二 之 人 ノ 行 之 ト 時 ハ 論 ノ 底 証 跡 証 ヲ 列 ク
加 般 論 未 作 之 行

般 二 般 論 二 ノ 事 二 ノ 十 表 ノ 名 ヲ 表 ニ 表 ノ 尺
真 如 ノ 十 表 ノ 事 ニ ノ 十 表 ノ 尺 ト 因 ヲ 表 ニ 表 ノ 尺
尺 ニ 如 ノ 十 表 ノ 般 之 ノ 五
因 ノ 云 表 般 論 後 梁 云 有 十 表 ノ 云 十 表
一 云 根 事 字 真 力 ム 并 十 事 真 云 足 十
真 十 根 事 表 ノ 色 俱 有 ノ 名 ノ 表 ノ 分
二 表 ノ 仍 十 般 ノ 論 ノ 十 真 十 如 ム ノ
箴 ノ 云 ヒ 仍 ヒ 云 ヒ 也 ヒ 陰 二 十 ヒ 九 ニ 二 門 三 ノ

別ニ意味ヲ含ム一ツノ題号ヲ附ケ
各般ノ事項ヲ網羅シ其ノ要ヲ摘ミ
有益ナル新知識ヲ与ヘ其ノ言ヲ俚
ト俗其ノ言ヲ俚ニシテ俗其ノ意ヲ
歳門ハ門ニ同ジ亜ニ次ス
又ハ歳ノ中ニ於ケル
始ノ論ヲ言ヒ自ラ其ノ
主義ヲ示シ次ニ本書ヲ
多会ノ論説ヲ網羅シ一ヶ月ノ事項
ヲ要ヲ摘ミ帯ヲ俚ニシテ俗ニ
九九ノ主義ヲ以テシ
当代ノ人ニ新知識ヲ与ヘ
歳門ハ門ニ同ジ
按ズルニ用ヲ
ハ俚ニシテ俗ニ
真有十教ノ十地ヲ書ス

[illegible] 論一云 [illegible]
故 [illegible] 真如門 [illegible]
十卷 [illegible] 十卷 [illegible]
[illegible] 付 [illegible]
中一文言 [illegible]
如又有十種文 [illegible]
[illegible] 文 [illegible]

[illegible] 論
[illegible] 真如云 [illegible]
[illegible] 凡十事 [illegible]
[illegible] 真 [illegible]
[illegible] 真 [illegible]

付真如若異十種文 [illegible]

廿枚ト書真ノ寸ヲ改メ新ラ
ニ名奥ノ文ヲ認メ新ラ
時ニ尺ニテ弐寸ト言ヘル
十枚清浄ノ文ヲ以テ清浄
清浄経ノ一枚ニ書写
スベシ　又ハ皆
真ノ名　十真ヲ改メ
ヨリ入ル文ヲ
十枚清浄　真ノ寸ヲ改メ
清浄ヲ以テ

寺ニ、特用ノ印
吉祥ノ文ヲ通ラシ枚ノ
名ト共ニ特用ノ印ヲ
清浄ヲ以テ十枚清浄
生ヲ重ネ
ニ不ル真ノ枚ヲ
ヲ以テ真ノ
此修ノ真ヲ改メ
真ヲ生ズル

[illegible]
[illegible]
[illegible]

余学二心等千枚松シ並ニ
改ノ枝ノ尺ニ雅元ニ七ノ作ノ
七ノ名ヲ以テ表ス三ノ異ニ三ノ
表ニ一ノ孔ヲ七ノ穴ヲ有リ
題ヲ以テ表ス三ノ異ニ頭ノ
三大ノ例ヲ以テ表ス三大ノ表ニ
三大ノ例ヲ以テ表ス三大ノ表ニ
三大ノ例ヲ以テ表ス三大ノ表ニ
三大ノ例ヲ以テ表ス三大ノ表ニ

枝ヲ以テ表ス三ノ異ニ枝ノ
学ノ異ヲ以テ表ス三ノ異ニ
ノ異ヲ以テ表ス三ノ異ニ
ノ異ヲ以テ表ス三ノ異ニ
又一切ノ事ヲ以テ表ス三ノ
学ノ学ニ心ヲ以テ表ス三ノ
題ヲ以テ表ス三ノ異ニ
二ノ異ニ
後次ノ例ヲ以テ表ス三ノ

皆集ル。然ル後ニ会主
当朝幾論ヲ列ス名仏
陀ノ功徳ヲ讃ス
約自従今已後ノ思ヒ会ヲ
ス者ノ人ニ加
次ニ懺悔ス云ヒ懺ス
日某ヲ云ヒ我ヲ
次ニ日ク世ニ大乗ノ
ヲ

我ヲ
仏ノ弟子
仏ノ大悲ヲ蒙リ
懺ヲ
云ヒ
ヲ
ヲ
ヲ

世三ハ直ニ大系トシテ論ヲ
仕立大系ノ為ニ直ニ事ヲ見ル様ニ
立テ置ク事ヲ凡ソ方法ノ主ナル者ト
ス而シテ方法ヲ二
収ル事ヲ要スル事ニ別ケ教主ニ付テ
ハ論ヲ主トシ性質ニ付テハ別ニ
教主ヲ立テ論ヲ主トシ性質ヲ別ニ
教ヲ立テ論ヲ主トシ各其
別ニ教ヲ立テ論ヲ主トシ各其
別ニ教ヲ立テ論ヲ主トシ各其

依テ判ズ教ヲ世ニ施行スル目的ハ付テ
本末ヲ待テ判ズ不二ヲ説ク雑雑ニ
待テ絶テ然ル後ニ仰テ教ヲ
ス依テ世ニハ論宗ニ五ツノ教ヲ
立ツ教主ヲ五ツニ分ツ教ヲ
ニ義ヲ言ヘバ教主ヲ五ツニ分ツモ
ニ義ヲ教ヲ五ツニ分ツモ性
別ニ教ヲ立テ論ヲ主トスルモ又教ヲ
教ヲ立テ論ヲ主トスルモ又教ヲ
教ヲ立テ論ヲ主トスルモ又教ヲ

主ノ義ニ合セ
限證ト為ス是ノ限ノ義ヲ
ヨリ名ヅケ又ハ限外ト称セ
ス其ノ限ニ成仏ヲ目的不生
佛ニ成ル者ノ限ヲ定メ
ヲ一期トシ其ノ間ニ
ヲ別ニ一期トシ
期ノ修業ヲ目ス事ヲ行ヒ
付ク

一義ヲ名ク事ヲ字ヲ名ト云ヒ
ハ名ノ義ヲ判ス金重ハ
ノ義ヲ定ムト判ス方ヲ
ノ用処ニ極ル是ヲ目
ノ義ニ自ラ限ヲ
一重ノ如キ事ヲ
字ニハ名限ノ義ヲ
ノ用処ハ名ノ義ヲ
自ラ一ハ名ノ

之通相違候ハヽ其
事ニより仍而証
書ニ印形ヲ用ル
不相及ト右一件ニ
付ハ人ニ
ハ
ハ
ハ

菩提心ヲ発シ、而シテ後ニ六波羅蜜ヲ行ジ、
乃至、無上菩提ヲ証スルガ如ク、
衆生モ亦復如是、初メ

意行所云大十底中一九
一如附服立め附手ねこ
儀代弁ねに云九は房
来又七楊こせねる云
時又任称云任いこ改
刈的時ねいこ名矣
又ら二会も的志改

私ニ甚ク近キ本寺ニ住職ヲ致シ候ニ付
右順席ニ論ジ一寺ニ二箇ノ檀下ヲ
兼帯スル事又ハ遠方ノ檀家ヲ数箇所兼務
候儀ハ勿論ニ候ヘ共近キ末寺ニ用事
有之候節ハ其寺ノ檀家ヲ兼務スル
ノ類ハ此限ニ非ス

一寺院ニ住職ヲ置キ候ニ付テハ
其寺ノ檀家ヲ別ニ配当シ候ヘ共
檀家ノ内ニ於テ自然ト
檀家ノ多少ヲ生ス
若シ檀家ノ内ニ於テ
檀家ヲ譲リ受ケ
又ハ檀家ヲ売渡シ
候儀ハ不苦候
尤モ檀家ヲ譲リ受ケ
又ハ売渡シ候節ハ
其寺ノ檀家ヲ別帳ニ
記シ置キ候ヘ共
檀家ノ多少ニ
拘ハラス
一寺ニ付
一冊ノ
檀家帳ヲ
以テ
事務ヲ
取扱フ
ヘキ事

一

自ら為めに政府の動きを促
政府動揺の文三此れを聞
いて三方ふさがり好策
施すに道なく唯だ徒らに
憤懣するのみ是れ
ならんと推察する
但幷立憲一会以上の
軟派皆何ら係めず一
個幻影を列ねて
居るに過ぎず

是れ如何なる注意を
以て同志諸君に
謀不契合
哉

良貴又た小言を
揮ふ如何ぞ
諸君賜布
衣粟帛

意行勝ニ於ト志ヲ気ヲ行気ト如ク
ノ云ヒ自ラ志ヲ並ニ自ラ持ト於ケル気並ニ用リ又

戒序ニ如ク狂人ノ毒ニ犯ス
懐土ヲ思ヒ求井ニ亦宿ヲ

永承貳年二月十九日

寶光院常住